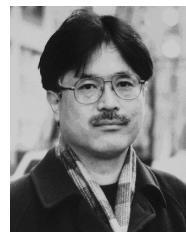


Captain English Course I・II Revised

工夫満載の楽しい教科書

翻訳家・エッセイスト
井上一馬



◆何事も「つかみ」が肝心

どうせ学ぶなら、楽しく学ぶに越したことはない。

それを実践しようとしてさまざまな工夫を凝らしている教科書、それがこの *Captain English Course I・II Revised* (以下 *Captain I・II*) のシリーズではないかという印象を私は持った。

漫才や落語に限らず、何事も「つかみ」が肝心であるとはよく言われる。「中学校で英語に苦手意識を持ってしまった生徒にも、もう一度、英語って楽しい、もう一回ちゃんと勉強してみようかなと思ってほしい」という願いを込めて作られたという、この教科書にとってはなおさらである。

その点でまず、この教科書は素晴らしい。

SMAP (スマップ) が歌って国民的なヒット曲になった「世界で一つだけの花」が、最初のレッスンに英訳されて載っているのである (I-1 Not No.1 but the Only One)。

「その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」「NO.1にならなくてもいい。もともと特別な only one」というこの曲の歌詞は、どれほど多くの人々に支持されたことだろう。

大半の高校生は、このレッスン1を見て、「おっ」と興味を引かれるに違いない。そして、そこから先へと進んでいける。

◆さまざまな工夫に感心

各レッスンの内容にも、大いに工夫が凝らされている。

I-3 It's Yummy! では、メキシコの代表的な料理タコスの作り方が紹介され、I-8 Volunteering in Thailand では、タイで車椅子の修理をするボランティア活動を行っている栃木県の工業高校の生徒たちの活動が紹介される。

高校生は、同じ高校生がやっている活動に大いに興味を持つだろう。

I-6 Is Seeing Believing? の、剥いたりんごを黒い皿に載せたときと白い皿に載せたときではどちらが美味しそうに見えるかといった、目の錯覚の話も面白かった。

II-2 Cybercitizens in Cyberspace では、インターネットの使い方やマナーが英語で学べる。「コピペ」が copy and paste のことだとわかる。

さらに、II-7 Lifein Space では、現在の子どもたちにとって人気の職業になっている宇宙飛行士 (土井隆雄さん) が宇宙での生活について語っている。

II-9 Don't Give Up では、今も波乱万丈の人生を生きている、ベストセラー『だから、あなたも生きぬいて』の著者・大平光代さんの生き方に触れることができる。

また、*Captain I* のリーディング教材では、日本でも根強い人気を保つ (私の好きな) 映画『ミュージック・オブ・ハート』の主人公ロベルト先生 (映画ではメルル・ストリープが演じた) の活躍が、ひとりの生徒の口を通して語られる。ロベルト先生は、バイオリンの課外授業を通じて、ニューヨークの貧しいイースト・ハーレムの小学校に新風をもたらした。



どの話題も up to date であり、高校生の興味を引きつけるに違いない。単に英語を学ぶだけではなく、英語を通してさまざまなことを学んでもらおうとする編集者の意図が強く感じられた。

「息抜き」(Have a Break!) のコーナーにも、昔ながらに、マーティン・ルーサー・キングやマザー・テレサの心をうつスピーチが載っているページだけでなく、運勢占いや英語のすごろくに挑戦するページも用意されていて、ここにも工夫の跡がうかがえる。

Communication のページには、「有名人になって自己紹介」をしてみるコーナーや、Eメールで友だちの悩みに答えるコーナーもある。構想を練って自分でスピーチを考えてみるページもある。

このようにこの教科書には、何とか英語に興味を持ってもらおうという工夫の跡が至るところに見られるのである。それに私は感心した。

◆ジョン万次郎の辞書に感激

中でも私がとくに感心したのは、*Captain I* の Warm-up のページに載っている「ジョン万次郎の発音教室」。そこには、150年も前に彼が苦労して作った英語の辞書の発音が載っていて、これがめっぽう面白い。

「ヤロ」は yellow, 「ゲエル」は girl, 「レーロー」は railroad, 「レバ」は river。

ここには8つだけしか載っていないが、1つひとつ実に納得できて、私は今このジョン万次郎の英語辞書をぜひ全部見てみたくてしかたがない。

だが、そうして楽しく英語を学ぼうとしても、各レッスンではきちんと英文法を学んでいかなければならない。

この教科書では各レッスンの中に文法の「Focus」コーナーが設けられ、3～4レッスンごとに「文法のまとめ」というページがあるが、それだけでは足りないの、やはり補足説明が必要になると思う。が、まあ、このあたりは英語の

先生方の腕の見せ所なのだろう。

文法は英語という言葉のルールを簡潔に説明したものであり、外国人が短期間に英語を学ぶためには必須であり、英語を早く理解するための近道でもある。

だが、楽しく文法を教えるのは非常にむずかしく、文法の説明はしばしば、英語が苦手な生徒や嫌いな生徒を作ってしまうがちである。

私も、『英語脳はすでにあなたの頭の中にある!』(大修館書店)などの本で、日本語との比較を通して何とか英文法をわかりやすく説明する方法をいろいろと考えてきたが、まだまだ十分とは言えない。

ところで、この教科書の全体を通して私がひとつ残念だったのは、この世代の若者たちが最も興味を持つであろう恋愛のトピックが少ないことだ。

I-7 Friendship or Love? で「ラジオ相談に寄せられた恋と友情の悩み」としてほんの少しか恋に触れているが、私なら、「I」「II」の両方に、少なくともひとつは『ロミオとジュリエット』ばりの大恋愛の話を入れたい。

リーディング教材として入っている『ミュージック・オブ・ハート』も、実は映画のほうは半分はロベルト先生のプライベートな恋愛の話である。

“Marriage, it's based on a belief that one person can completely meet another's needs.”

「結婚っていうのは、ひとりの人間がもうひとりの人間の必要を完全に満足させられるっていう確信に基づいているんだ」

“If two people care about each other, they take a chance.”

「二人の人間がお互いに相手を気にかけているなら、賭けてみるものだわ」

こんなセリフの出てくるこの映画をリーディングの授業の前に実際に見てみるのも一興だろう。

(いのうえ かずま・翻訳家/エッセイスト)